

認できる四点がいずれも四斗で、(10)も少なくとも斗単位であるが、SX一五では斗以下の単位が記されている。阿波では五斗が単位となっているとみられる例もあるが(本誌第二号)、この資料群では四斗をひとつの基準と捉えられるとともに、端数に関する相違が認められる。このように本遺跡出土の荷札木簡では、幕末から近代初期に比定されるものとそれ以前のものの比較において、時期差に伴う何らかの理由による表記の内容や方法の差異を指摘できる可能性がある。なお、判読できた村名は高知平野の西縁部や東縁部に所在する。

次に、下方を細くしない平面形で、且つ上端部に穿孔される一群が存在する。両面に同じ内容が記されるものや、刻書されるものがあるほか、内容からも免札あるいはそれに類する機能を想定できるものがある。

以上の文字資料とその他の調査成果を併せてみた場合、本遺跡を営んだ主体と地方知行との関係など、極めて興味深い問題に関する情報を含んでいると言えよう。

なお、釈読は土佐史談会の高橋史朗氏にお願いした。

9 参考文献

高知県文化財埋蔵文化財センター『高知城伝下屋敷跡』(二〇〇二年)

(池澤俊幸)

木簡研究 第二〇号

巻頭言―機器の目・人の目―

一九九七年出土の木簡

和田 萃

概要 平城宮跡 平城京跡(1) 平城京跡(2) 青野遺跡 藤原宮跡 酒船石遺跡 長岡宮跡 長岡京跡左京二条四坊三町 長岡京跡右京六条二坊六町 平安京跡右京三条一坊三町 平等院庭園 細工谷遺跡 大坂城跡 天満本願寺跡 堺環濠都市遺跡 東浅香山遺跡 猪名庄遺跡 屋敷町遺跡 加都遺跡 明石城武家屋敷跡 境谷遺跡 茂利宮の西遺跡 安坂・城の堀遺跡 大將軍遺跡 大脇城跡 瀬名川遺跡 明治大学記念館前遺跡 千駄ヶ谷五丁目遺跡 山崎上ノ南遺跡B地点 西原遺跡 松本城三の丸跡小柳町 松本城下町跡伊勢町 三輪田遺跡 一本柳遺跡 志羅山遺跡 三条遺跡 上高田遺跡 山田遺跡 弘田柵跡 大光寺新城跡遺跡 福井城跡 金石本町遺跡 戸水大西遺跡 堅田B遺跡 七尾城下町遺跡 蛇喰A遺跡 二口五反田遺跡 清水堂F遺跡 下ノ西遺跡 中倉遺跡 大御堂廃寺 三田谷I遺跡 有福寺遺跡 高田遺跡 百間川米田遺跡 津寺遺跡 末原遺跡群(灰原上層) 萩城跡(外堀地区) 高松城跡 観音寺遺跡 上長野A遺跡 香椎B遺跡 博多遺跡群 魚屋町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(二〇〇) 藤原宮跡
 釈文の訂正と追加(一) 山垣遺跡 袴狭遺跡(深田地区) 袴狭遺跡
 入佐川遺跡 出雲国庁跡
 再び長屋王家木簡と皇親家令について 八木 充
 長野特別研究集会の記録
 信濃の古代と屋代遺跡群:寺内隆夫、七世紀の屋代木簡:傳田伊史、七世紀の地方木簡:鐘江宏之、七世紀の宮都木簡:鶴見泰寿、律令制の成立と木簡―七世紀の木簡をめぐって―:館野和己
 書評 佐藤信著『日本古代の宮都と木簡』 仁藤敦史
 新刊紹介 大庭脩編著『木簡―古代からのメッセージ―』 丸山裕美子

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円